

令和6年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	相州わかなご席亭会
事 業 名 称	わかなご寄席
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年7月20日（土）
開 催 場 所	町民センター 老人クラブ室
出 席 委 員	丹羽委員



事業の概要

伝統芸能の若手演者を招き、「相州わかなご寄席」を開く。

伝統芸能に触れる機会を提供し、地域活動の活発化、若い世代を支援する気質の醸成、多様性への理解促進を図る。

現場確認の内容

スタッフ18名による研修を兼ねて行われた桂銀治氏による独演会。



委員のコメント

第一部

コアメンバー、スタッフ（約20人）を対象とした研修会で取り組みの方向性を確認。

- ①地域活性化にも資する地域寄席
- ②二宮町の補助金事業としての使命、役割

第二部

桂銀治さん独演会

所感

- (1) 研修会を実施するなど丁寧な取り組み方で、複雑に絡み合った＆既存の答えのないテーマである地域活性化にも資する処方を探求しているとの印象。確かに今の世相を勘案すれば、直球勝負だけではなく、「心の銭湯」の効能が必要かつ有効かもしれない。是非、行政サイドも含め良い学びの場として活用していくことが望まれる。
- (2) 桂銀治さん曰く、（演目の一つが世辞でもあり世辞半分の可能性もあるものの）、この事業は新たに二ツ目に昇進した立場からするととてもありがたいオファーであるとのこと。双方 WinWin の長い関係になりうるので行政サイドからの配慮が望まれる。

令和6年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	一般社団法人 あそびの庭
事 業 名 称	子ども真ん中居場所事業「はらっぱベース」
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年7月29日（月）
開 催 場 所	みらいはらっぱ
出 席 委 員	高見委員



事業の概要

学校に行っている子ども、行かない・行けない子ども、大人でも。気楽に立ち寄り安心して過ごしてもらえる場所を、町内につくる。

3年目となる今年度は、団体と活動の基盤強化に向けて、①運営体制の強化②資金調達の多様化③スタッフ人材育成の3つに取り組めます。



現場確認の内容

猛暑のため、はらっぱベースの利用者は少なめとのこと。

今年度は8月中は休止するとのことで、休止前最後の現場確認となった。

委員のコメント

町民活動のお手本となるようなテーマに取り組まれていることに感謝します。
不登校という言葉は表面的な面だけをとらえていて、それぞれの子ども達が根っこに抱えている問題はなかなか理解されないように思います。
その意味で、「親たちの会」を地道に継続され、（教育現場の人たちを含め）少しずつでも理解者が増えていくことを期待します。

令和 6 年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	一般社団法人 あそびの庭
事 業 名 称	子ども真ん中居場所事業「はらっぱベース」
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年9月9日（月）
開 催 場 所	みらいはらっぱ
出 席 委 員	山岡委員



事業の概要

学校に行っている子も、行かない・行けない子も、大人でも。気楽に立ち寄り安心して過ごしてもらえる場所を、町内につくる。

3年目となる今年度は、団体と活動の基盤強化に向けて、①運営体制の強化②資金調達の多様化③スタッフ人材育成の3つに取り組めます。

現場確認の内容

会費の値上げや自治会行事プロデュース、子ども会のキャンプの企画運営等、収益を得るための工夫をしている。今後企業研修の企画運営を受けることも検討している。

委員のコメント

子どもたち数名が三々五々やってきて、スタッフやお友だちとおしゃべりをしたり、お手伝いをしたり、それぞれが自由に、楽しそうに時間を過ごしていました。利用者数は少しずつ増えて、今年は多い時には10人を超えることもあったとのこと。ホームページのリニューアルなどさまざまな形での広報により、認知が広がっているのでしょう。運営に関しては、会員が増えたことや事業収入もあり改善しており、スタッフについては、男性スタッフの加入やボランティア学生の参加等により役割分担しながら運営できるようになってきたとのこと何よりです。町の補助金は今年度が最終年度となりますが、ここまで基盤整備を着実に進められており、今後の活動が楽しみです。

令和 6 年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	相州わかなご席亭会
事 業 名 称	わかなご寄席
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年9月14日（土）
開 催 場 所	町民センター 老人クラブ室
出 席 委 員	大河原委員



事業の概要

伝統芸能の若手演者を招き、「相州わかなご寄席」を開く。

伝統芸能に触れる機会を提供し、地域活動の活発化、若い世代を支援する気質の醸成、多様性への理解促進を図る。

現場確認の内容

今回は落語家だけでなく、講談師も招いての寄席となった。102名もの客が集まり、湘南ケーブルテレビとタウンニュースの取材が入っていた。クチコミで人気が広まっているように感じた。



委員のコメント

今回の寄席は講談師の神田梅之丞さん、落語家の桂銀治さんに演じて頂き大変面白い内容でした。会場は100人ほどの参加者で満席の状況でした。来場されている方々も大変満足されている様に感じました。懸念点としては、来場される方の年齢層が高い中、会場が和室の為、9割の方が座布団に直接着座となり、辛そうな方もいらっしゃったので椅子を多めに配置した方がいいかと思います。

内容も素晴らしく、更に多くの方の来場が見込めそうですので会場を広げるか、2回に分けて講演などをご検討されるのも良いかと思います。

令和 6 年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	一般社団法人 あそびの庭
事 業 名 称	子ども真ん中居場所事業「はらっぱベース」
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年10月21日（月）
開 催 場 所	みらいはらっぱ
出 席 委 員	馬場委員、松永委員



事業の概要

学校に行っている子ども、行かない・行けない子ども、大人でも。気楽に立ち寄り安心して過ごしてもらえる場所を、町内につくる。

3年目となる今年度は、団体と活動の基盤強化に向けて、①運営体制の強化②資金調達の多様化③スタッフ人材育成の3つに取り組めます。

現場確認の内容

当日は一色小学校の運動会、二宮小学校の授業参観の振替休日で、利用している子どもが7人とやや多めであった。

年度当初予定した「リーフレット作成」は少々遅れているものの、企業協賛金まわりと併せて作成する予定とのこと。



委員のコメント

子どもたちを中心として、大人も一緒にゆったり過ごすことができ、そして自由に遊べる空間がそこには広がっていました。多くの方が何かに追われるように過ごしているこの社会において、ここはそんな窮屈で息の詰まる思いを忘れさせてくれて、思わず時間も忘れてしまうほどに居心地の良い居場所づくりがされていました。これからもはらっぱベースがみんなの居場所であり続けてくれて、遊びに来ればたくさんのお出会いがあって、つながって、認め合って、輪になって、笑顔になれる、時には泣き合うことも、そんな居場所であることを期待しています。また、遊びの庭様の活動を通じて若い世代のみなさまが地域づくり、地域活動へ参加するきっかけとなればと併せて期待をしています。さらに、本来の目的、活動の良さを損なわないように、いずれは多世代交流など新たな展開があっても良いのではないかと考えています。

今年度で町民活動推進補助金が終了になるため、資金面をはじめとした運営の課題を抱えられていることに不安を感じる場所もありますが、スタッフのみなさまはやる気、そして自信に満ちていられるので、ひとつひとつの課題も乗り越えていけると考えています。そんな中、すでにさまざまな工夫をされていることでもありますので、十分に期待できるのではないかと考えています。

委員のコメント

1. 当日は、7～8人の子供たちが、「のびのび」「生き生き」と夢中になって遊んでおり、大変印象的でした。このようなすばらしい情景に接するたびに、当該活動をここまで育ててこられたスタッフの皆様に、ただただ頭が下がります。
溢れんばかりの「母性愛」を感じました。
2. 二宮町としての補助金支援が今年度で終了し、当活動の存続にあたっての課題が改めて浮き彫りとなっています。
 - ・補助金に代わる資金確保策を具体的にどのように進めるか。
 - ・特に、有力な対策と考えられる「企業からの寄付」には、それなりの組織的な継続努力が必要でしょう。タイトな時間の中で、早急に更なる活動基盤の強化に注力されることを期待します。
3. 不登校が全国的に大きな社会的課題になっている現状にあって、結果として当活動が、一部の学校に行きづらい子どもたちに楽しい時間を提供し、彼らの可能性を高めていることの意義は、計り知れないと思われます。
4. 不登校に関して、周辺市町村も同じ課題を抱えていることを踏まえると、今後の広報活動は、町内のみならず町外にも展開して、一層の情報共有化を進め、周辺自治体やその住民からの支援をも得られて、運営資金確保やスタッフ増員につながるように期待したいです。

一方、当活動は100%純粋なボランティア精神に依存しています。しかし、組織としての活動である以上、スタッフの「モチベーション維持」のため、報酬アップや活動の達成感の共有対策（例：活動の評価基準設定等）も、現実的な隠れた課題のように感じます。資金確保の次のテーマでしょうか。

令和 6 年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	一般社団法人 あそびの庭
事 業 名 称	子ども真ん中居場所事業「はらっぱベース」
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和6年11月10日（日）
開 催 場 所	みらいはらっぱ
出 席 委 員	手塚委員



事業の概要

学校に行っている子ども、行かない・行けない子ども、大人でも。気楽に立ち寄り安心して過ごしてもらえる場所を、町内につくる。

3年目となる今年度は、団体と活動の基盤強化に向けて、①運営体制の強化②資金調達の多様化③スタッフ人材育成の3つに取り組めます。

現場確認の内容

当日は10時30分で既に8人の子どもが集まっており、とても賑わっていた。

今年で町の補助金が交付限度回数（3回目）になるので、今後の収支について町民活動推進委員長からアドバイスがあった。



委員のコメント

ゆっくりとした時間の流れる現場で、子ども達は思い思いの動きを楽しんでいるようでした。近くの広場で、小学校の野外授業と思われる（担任の先生らしき人物がいたのでそう思いました。）集まりがあっても特に気にしている様子もなく、のびのびと過ごしていました。彼らにとって安らげる居場所となっていることは十分に確認できました。

運営や経営のことも少しお聞きしたところ、やはり、人材と財源は悩みの種のようなようでした。利用者の家族から利用料を受けるプランも考えてはいるものの踏み切れない気持ちがあるようでした。寄付のお礼になるような品目（Tシャツやシールなど）を考案するなど、収益を上げるための工夫を少しずつ始めていました。本来、家賃などのランニングコストを助成金頼みにしてしまうと、そこにエネルギーが相当費やされることになり、あまりお勧めはできません。しかしながら、一定期間はやむなしといったところもあります。

学校に行きにくさを感じている子どもにとって、一時的でも居心地の良い居場所が町内に存在することは、町民全体の利益につながります。高齢者の居場所同様、子ども達の孤独や孤立を生まない施策がそろそろ必要ではないかと感じました。